

114
A 2655



遺失物法

第 一 條

他人ノ遺失シタル物件ヲ拾得シタル者ハ

拾得ノ日ヨリ七日内ニ遺失者又ハ所有者

其ノ他物件回復ノ請求權ヲ有スル者ニ其

ノ物件ヲ返還シ又ハ警察官署ニ之ヲ差

出スヘシ但シ法令ノ規程ニ依リ私ニ所有

持スルコトヲ禁シタル物件ハ返還スルコトヲ

得ス

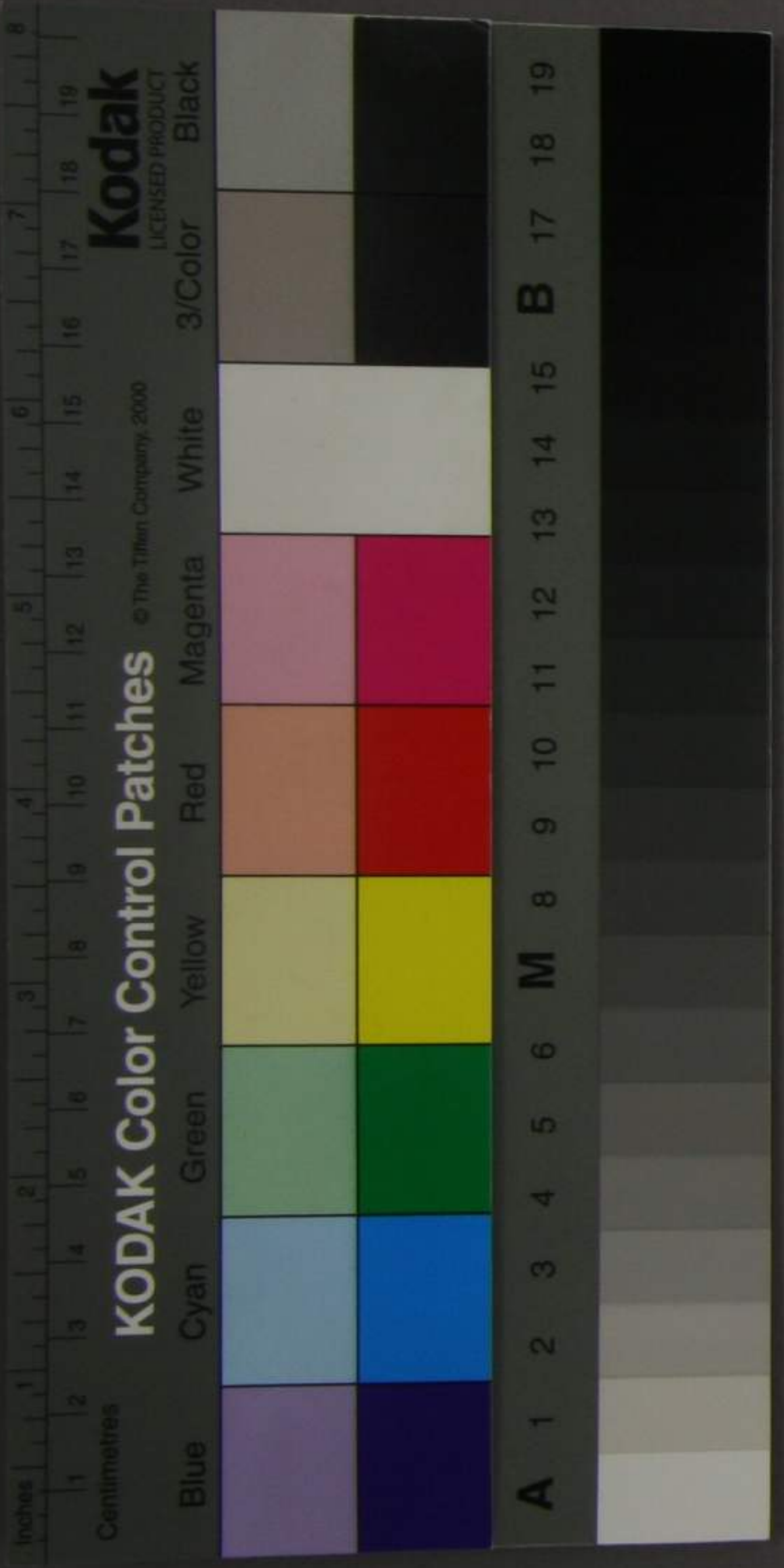
物件ノ警察官署ニ差出シタルトキハ警察

官署ノ物件ノ返還ヲ受テヘキ者ニ之ヲ返還

スヘシ若シ返還ヲ受テヘキ者ノ氏名又ハ

居所ヲ知ルコト能ハサルトキハ命令ノ違ム

大正十一年四月
侯爵郵寄贈



ル所、從之公告ヲ為スヘシ

第二條 警署官署ハ其ノ保管ノ物件滅失
又ハ滅損ノ虞アルトキ又ハ其ノ保管ニ不相
當ノ費用若クハ手数數ヲ要スルトキハ命令
シテ之ニ方法ニ從ヒ之ヲ賣却スルコトヲ得
賣却ノ費用ハ賣却代金ヨリ支辨スルモノト
ス

賣却費用ヲ扣除シタル賣却代金ノ殘
額ハ拾得物ト看做シテ之ヲ保管ス

第三條 對シテハ出訴スルコトヲ得ス
拾得物ノ保管費公告費其他必
要ナル費用ハ物件ノ返還シ受クル者又ハ
物件ノ所有權ヲ取得シ之ヲ引取ル者ノ

負擔トシ民法第二百九十五條乃至第三百
二條ノ規程ヲ準用ス

第四條 物件ノ返還シ受クル者物件ノ價格百
分二十ヨリ少ナカラス二十ヨリ多カラサル
額ヲ拾得者ニ給スヘシ

第五條 物件ノ價格ハ當事者ノ合意ヲ以
テ之ヲ定ム

第六條 依リ賣却シタル物件ニ付テハ賣
却代金ノ額ヲ以テ物件ノ價格トス

第七條 第六條ノ費用及第四條ノ報焚金
ハ物件交付後一箇月後ハ請求スルコト
ヲ得ス

第七條 拾得者第一條ノ手續ヲ為ス場合ニ

於テハ豫メ申告シ以テ拾得物ニ關スル一切ノ權利ヲ拋棄シ義務ヲ免ルコトヲ得

第八條 物件ノ返還ヲ受クヘキ者ハ其ノ權利ヲ拋棄シテ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金並償ノ義務ヲ免ルコトヲ得
物件ノ返還ヲ受クヘキ各權利者其ノ權利ヲ拋棄シタルトキハ拾得者其ノ物件ノ所有權ヲ取得ス但シ拾得者其ノ取得權ヲ拋棄シタルトキハ第一條ノ例ニ依ル法令ノ規程ニ依リ私ノ所有ヲ持テ禁シタル物件ヲ拾得シタル者ハ所有權ヲ取得スル限ニアラス

第九條 第九條第一項ノ違背ニ若クハ拾得ノ事實ヲ隠蔽シタル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ受クルノ權利并ニ拾得物ノ所有權ヲ取得スルノ權利ヲ失フ

第十條 管守者アル船舶建築物其他公衆ノ通行ヲ禁シタル構内ニ於テ遺失物ヲ拾得シタル者ハ該物件ヲ管守者ニ交付スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ管守者ハ所屬ニ從ヒ國府縣其他公共團體又ハ私人ヲ以テ拾得者トス但シ第四條ノ報勞金請求權ナキモノトス

第十二條 犯罪者ノ遺去リタルモノト誌スル物件ヲ發見シタル者ハ發見ノ日ヨリ七日内ニ其ノ物件ヲ警察官署ニ差出スヘシ
前項ノ物件ニ關シテハ法律ノ規程ニ依リ没收スルモノヲ除ク外第一條第二項第二條第三條第六條第七條第八條第十條及民法第二百四十四條ノ規程ヲ準用ス但シ公訴權消滅ノ日ヨリ一箇年間還付シ受テル者ナキトキハ限り發見者ニ於テ所有權ヲ取得ス
警察官署ニ於テ犯罪捜査ノ爲必要ト誌スル物件ニ係ルトキハ公訴權消滅ノ日迄公告ヲ爲サルトシ得

第十三條 誤ニ換カシタル物件又ハ逃走ノ家畜並ニ埋藏物ニ關シテハ本法ノ規程ヲ準用ス但シ誤ニ物件ヲ換カシタル者ハ第三條ノ費用及第四條ノ報勞金ヲ請求スルコトヲ得ス
埋藏物件ニシテ學術研究若クハ考古ノ資料ニ供スヘキモノナルトキハ國ハ第七條又ハ民法第二百四十一條ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者ニ對シ價格ヲ補償シシ物件ヲ没用スルノ權利ヲ有ス
第十三條 本法及民法第二百四十四條第一項規程ニ依リ物件ノ所有權ヲ取得シタル者ハ第一箇年内ニ物件ヲ

警察官署ヨリ引取ラサルトキハ所有權ノ喪失ス

第十四條 本法ノ規程ニ依リ警察官署ニ保管スル物件ニシテ交付シ受クル者ナキトキハ國ノ所有ニ屬ス

第十五條 明治九年第五十六號布告遺失物取扱規則ニ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

理由

現行遺失物取扱規則ハ明治九年ノ發布ニ係リ創設日久シク今日ニ至リテハ其ノ規定不備ニシテ往々實際ニ適セサルモノアリ
總ニ執行上不便ヲ感スルモノ亦甚ク多ク加之民法第二百四十一條及同第二百四十二條ニ依リ遺失物及埋藏物ノ割シテ特別法ニ定ムル所ニ從ヒ所有權ヲ取得スル旨ノ規定セラレタリ而シテ民法ハ已ニ實施セラレタル今日ニ於テ同規則ニ改正ヲ加フル時機ノ最モ宜キヲ得タルモノト信ス
本法ニ主トシテ現行法中不備不明ノ條項

シ明確ナラシムルト同時ニ遺失物及埋藏
物ニ關スル權利得喪ノ事實ヲ審査
シ尚從來伺指令ヲ以テ補給シ来リタル
事例ニ參照シ最メテ實際ニ適合セシ
メント欲スルニ在リ是レ本法改正ノ要ス
ル所以ニ概要ナリ